

クロロカーボン衛生協会通信

第 1 5 号

2010 年 8 月

塩素系溶剤をお使いの皆様へ

協会通信第 15 号を配信します。

今月は「職場の安全衛生活動 - 安全衛生委員会 - について」です。



1. 安全衛生委員会を設置して、活動していますか？

労働安全衛生法により常時使用する労働者(パート、日雇い、派遣労働者を含む)が50人以上の事業場には、安全委員会、衛生委員会(又はこれらを統合した安全衛生委員会)を設置することが義務づけられています。

労働災害防止の取組を**労使が一体**となって行う為に、この委員会を設置して、労働者の危険または健康障害を防止するための対策(労働災害の原因、再発防止策等)などについて調査審議を行います。

委員の構成、調査審議事項等は、下表のとおりです。

	安全委員会	衛生委員会
委員の構成	1. 総括安全衛生管理者 2. 安全管理者* 3. 労働者(安全に関する経験を有する者) *	1. 総括安全衛生管理者 2. 衛生管理者* 3. 産業医* 4. 労働者(衛生に関する経験を有する者) *
調査審議事項 (主要なもの)	1. 安全に関する規定の作成 2. 危険性又は有害性等の調査、その結果に基づいて講ずる措置 3. 安全に関する計画の作成、実施、評価及び改善 4. 安全教育の実施計画の作成 など	1. 衛生に関する規定の作成 2. 衛生に関する計画の作成、実施、評価及び改善 3. 衛生教育の実施計画の作成 4. 定期健康診断等の結果に対する対策 5. 長時間労働による健康障害の防止対策 6. 労働者の精神的健康の保持増進を図るための対策
その他 (共通事項)	毎月一回以上開催すること 委員会における議事の概要を労働者に周知すること 議事録を作成し、これを3年間保存すること。	

* 1以外の委員については、事業者が任命。この内の半数については、過半数の労働者で組織する労働組合(ない場合は労働者の過半数を代表する者)の推薦で指名しなければならない。

なお、労働者数が50人未満の事業者の場合にも、安全衛生に関して、関係労働者の意見を聴くための機会を設けなくてはなりません。(労働安全衛生規則第23条の2)

金属洗浄等でクロロカーボンを取り扱う事業所もこの法律の適用を受け、職場の規模に応じて安全衛生を推進するための体制を作り、運営しなければなりません。50人以上の事業所では、安全管理者(300人以上の場合には、この上に更に総括安全衛生管理者)を選任する必要があります。また、10~49人の事業所には安全衛生推

進者を選任し、10人以下の場合には、事業者自身が推進者となります。

これら選任された者が推進役になって、安全衛生委員会(50人以下の小規模事業所では、相応の打ち合わせ会)を中心に活動を推進します。



2. 安全衛生委員会の議題・テーマ

クロロカーボンのような化学物質を取り扱う職場では、まずはその物質の危険性及び有害性を十分に熟知させ、取り扱い、貯蔵、運搬等に係わる際に発生する可能性について取り上げ、その防止策等の検討、話し合いを行うことも安全衛生委員会の大きな課題・テーマの一つとなります。

議題・テーマの資料は、クロロカーボンの MSDS、クロロカーボン適正使用ハンドブック、厚労省から毎年発表される災害事例などから選び出すことができます。また、自分たちの職場で起こっているより身近な問題や要望をピックアップして話し合うことも重要です。また、交通事故防止や健康作りの計画などもテーマになります。

大事ことは、安全衛生委員会は、職場と違い、管理職員(上司)と一般職員(部下)は対等であり、平等に話し合うことです。衛生委員会がうまく運営されるかどうかは、管理職員と一般職員が打ち解け平等な立場で話し合いを行えるかにかかっているとと言っても過言ではありません。

労使、一致協力して、安全活動を推進しましょう。

< コーヒーブレイク >

・ ニュートリノとテトラクロロエチレン

ニュートリノというと、カミオカンデ(神岡鉱山跡に設置された検出装置)で世界で初めてこれを検出した業績で2002年ノーベル物理学賞を東大の小柴先生が受賞したことが記憶に新しい。この装置には3千トンの超純水が用いられたが、、、実は同時に受賞した米国科学者は、同じ目的にテトラクロロエチレンを用いていた。(以下海外記事から)テトラクロロエチレンが、2002年ノーベル物理学賞を受賞した3名の1人である米国の化学者の仕事に貢献した。テトラクロロエチレン約40万リットルが、南ダコタの金鉱の底に設置されたタンクの中で放射化学実験を行うために、Raymond Davis Jr.によって使用された。タンクは、太陽ニュートリノの検出・測定を妨害する宇宙線から隔離するために、地球表面の1,500m下に設置された。Davisの実験は、24年間(1970-94)ほぼ連続して行われ、その間、2,200のアルゴン原子がタンクの中で検出され、そのうち776個が太陽ニュートリノによって作り出されたと推定された。

クロロカーボン、こんなところで最先端科学に寄与していたんですね。



クロロカーボン衛生協会通信 第15号は、ご参考になったでしょうか？

お問い合わせ等がありましたら、下記協会までご連絡下さい。

クロロカーボン衛生協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-4-1 住友不動産六甲ビル8階

電話:(03)3297-0321 FAX:(03)3297-0316

URL:<http://www.jahcs.org/> E-mail:y-yamamoto@jahcs.org